



令和 8 年度 山梨県立富士河口湖高等学校 第 2 回学校運営協議会

日 時：令和 8 年 8 月 2 8 日（金） 15:30～17:00
場 所：山梨県立富士河口湖高等学校 小会議室

第 2 回学校運営協議会

（司会 教頭）

- ① 開会の言葉（司会）
- ② 校長あいさつ
- ③ 会長あいさつ
- ④ 議事（議長 会長）
 1. 地域との連携について
 2. 学校の魅力化について
 3. その他
- ⑤ 報告事項
 1. 令和 8 年度学校評価中間報告（教頭）
- ⑥ 学校運営協議会委員より
- ⑦ 閉会の言葉（司会）

※今後の予定

第 3 回 令和 8 年 1 1 月 3 0 日（月）
第 4 回 令和 9 年 2 月 1 0 日（水）

令和8年度第2回学校運営協議会会議録

令和8年8月 28 日(金)15:30～

於：小会議室

① 開会の言葉(教頭)

② 校長あいさつ

先月実施した部会での協議内容を共有し、さらに議論を深めたい。また、8月22日のオープンスクールには395名の中学生が参加し、生徒主体の座談会や部活動見学を実施した。今後は、3年生の進路実現支援とともに、体育祭等の学校行事を通じて充実した教育活動を進めていきたい。

③ 会長あいさつ

2学期が始まり、特に3年生の進路指導が本格化する時期を迎えていることから、学校には生徒一人一人の進路実現に向けた支援を期待します。本日の協議が学校運営の充実につながる有意義なものとなるよう、委員からの積極的な意見を願いたい。

④ 議事(議長小石川会長)

1. 地域との連携について

地域連携部会では、本校が地域資源や関係機関とどのような連携を図ることができるかについて協議を行った。

富士山科学研究所との連携による自然環境学習や防災教育の充実、大沢農園における新たな農業の取組を通じた地域産業学習などの可能性が示された。また、富士河口湖町が実施する「まちフェス」をはじめとするイベントへのボランティア参加を通して、生徒が地域と関わる機会を増やすことの重要性が確認された。

さらに、商工会を通じた地域企業との連携についても意見が出され、地域で働く方々から直接話を聞く機会は、生徒の進路意識の醸成や地域課題への理解促進につながるとの考えが示された。

大学との連携については、山梨大学や健康科学大学、山梨学院大学における地域活動の事例が紹介され、高校生と大学生との交流の可能性についても話し合われた。

部活動を通じたつながりは仕事の進めやすさや信頼等、卒業後も生きてくるという意見があった。

そのほか、自衛隊やFC ふじざくら山梨等との連携による体験活動やキャリア教育についても紹介され、本校が今後活用できる地域資源について多くの情報が共有された。

これらの地域課題や地域の取組を生徒が直接学ぶことは、総合的な探究の時間における課題設定や進路選択の参考になると考えられるため、今後も地域との連携を推進していきたい。

(委員 A)地域イベントへの参加に加え、町議会の傍聴は地域課題や行政の取組を直接知ることができる貴重な機会であり、生徒の学習にも有効ではないか。議会傍聴は誰でも可能である。

(校 長)地域課題を直接知ることのできる機会として大変興味深く、探究活動等にも活用できる可能性を感じる。

(委員 B)私自身もCATV等での議会中継等から得られる情報は地域の方向性を知る上で有益であると感じている。生徒にとっても学びの機会となる。

→承認

2. 学校の魅力化について

学校魅力化部会では、本校の魅力をどのように整理し、どのように発信していくかについて協議を行った。

まず、中学生、在校生、保護者、地域住民、同窓生などを対象として、本校の特色や強みを効果的に伝える方法について検討した。特に、高校進学後の進路実現を見据えた情報発信の必要性が指摘され、本校の特徴である多様な進路選択の可能性を積極的に発信していくことが重要であるとの意見が出された。

また、学校説明会やオープンスクールの在り方についても協議が行われ、学校の魅力や特色がより伝わる

内容への改善が必要であるとの認識が示された。

さらに、本校の特色として、学力の向上だけでなく、人間性やコミュニケーション能力を育成する教育活動が挙げられ、「河高の卒業生なら安心」と評価される学校づくりを進めていくことが提案された。

学園祭については、地域への公開方法の見直しに関する意見が出された。現在はステラシアターを会場としているが、学校開催とすることで学校の雰囲気をもっと伝えやすくなるのではないかと意見があった。一方で、実施方法の変更には十分な準備が必要であることも確認された。

また、来年度迎える創立 50 周年は学校の魅力を発信する好機であり、卒業生と在校生をつなぐ事業などを通じて学校の特色を広く発信できるのではないかと提案があった。

国際理解教育や英語教育の充実、SNS を活用した情報発信等についても意見が出されたが、まずはオープンスクールや学校行事を活用した魅力発信について検討を進めたい。

(委員 C) 近隣高校との差別化を図り、本校の魅力をより明確に打ち出す必要がある。特に、「充実した学校生活を送りながら進路実現を目指すことができる学校」という特色は、本校の魅力として積極的に発信できるのではないかと。また、中学生に対する直接的な広報活動も重要である。

(委員 D) 学校生活の充実感は学校の魅力の根幹であり、生徒自身の満足感や成長実感が進路実現にもつながる。

(委員 E) 中学生への魅力発信が重要であり、部活動や学校行事、進路実績などの具体的な強みを分かりやすく示すことが必要である。また、学校のみで取り組むのではなく、地域との連携や外部資源の活用を図りながら特色ある取組を積み重ねていくことが重要である。

(委員 F) 現在はスマートフォンによる情報収集が一般的であり、Instagram 等の SNS は有効な情報発信手段である。企業においても SNS を活用した広報活動が重要視されていることから、学校広報においても参考になるのではないかと。

(校長) 県の運用方針により、生徒用端末及び教職員用端末では SNS 利用に制限が設けられているため、学校として主体的な活用は難しい状況にある。一方で、本校ホームページについては継続的に更新を行っており、学校の教育活動や生徒の活躍を積極的に発信している。

(委員 G) 学校の魅力を発信するためには、教職員・生徒・地域が共有できる「魅力の軸」を明確にすることが重要である。本校の教育理念とも関わる「人間力の育成」を特色として再認識し、積極的に発信していくべきではないかと。

(委員 H) 本校の教育目標である「心のゆたかな人間を育てる」は、人間力の育成と深く結び付くものである。創立 50 周年を機に理念を再確認し、本校らしさとして発信していくことが重要である。

→承認

3. その他

本会議の議題ではないが、前日に実施した教職員研修会について報告があった。

研修会では「河高の魅力化」をテーマとし、6 月に実施した第 1 回研修会の内容を踏まえながら、より具体的な取組について検討を行った。教職員を 6 グループに分け、それぞれの立場から学校の魅力向上に向けた提案を出し合った。

地域連携をテーマとしたグループでは、本校が富士河口湖町と協定を締結し、避難所に指定されていることを踏まえ、災害発生時に高校生としてどのような役割を果たすことができるのかを学ぶ機会を設けることが提案された。

防災教育に関するグループからは、富士山科学研究所等との連携を通して火山防災について学び、地域防災に高校生がどのように関わることができるかを考える取組を進めてはどうかとの意見が出された。

また、生徒会が中心となって富士山噴火を想定した避難訓練の計画を進めていることが紹介された。この取組は、生徒の探究活動から生まれた提案を基に進められており、今年度中の実施を目指している。

部活動をテーマとしたグループからは、中学校との連携を一層進めるため、部活動体験会や合同練習会を実施してはどうかとの提案があった。また、小学生を対象とした見学会や体験活動を実施し、地域との交流を深めることも検討された。

進路指導・学習活動をテーマとしたグループでは、本年度導入した ICT を活用した進路指導支援ツールについて意見交換が行われた。効果的な活用に向けて教員研修を充実させる必要があることや、家庭学習や授業の復習にも活用しながら基礎学力向上につなげていくことが確認された。

教職員研修会では、防災教育、地域連携、部活動を活用した地域交流、ICT を活用した進路指導及び学習支援などについて具体的な提案が出された。今後は学校運営協議会委員の協力も得ながら、実現に向けて検討を進めていくことが共有された。

⑤ 報告事項

1. 令和8年度学校評価中間報告

⑥ 学校運営協議会委員より

(委員 I) 本日の協議を通じて、学校の魅力化について改めて考える機会となった。小中学校では行政の方針等により一定の共通性が求められる一方で、それぞれの学校が独自の魅力をどのように打ち出していくかも重要であると感じた。学校の魅力について教職員だけでなく生徒自身が考え、自校への理解や愛着を深めることが学校の発展につながると考える。

(委員 J) 生徒が主体となって富士山噴火を想定した避難訓練を計画していることは大変意義深い取組である。探究的な学びや防災教育においては、生徒自身が考え、話し合い、課題解決に取り組むことが重要であり、今回の取組はその実践例として高く評価できる。こうした活動を継続し、学校の特色として発信していくことを期待する。

(委員 K) 社会では主体的に考え行動する力が求められている。近年は精神的な不安を抱える若者も増えているように感じるが、生徒が自ら考え行動する経験を積むことは、社会で必要とされる力の育成につながる。学校においても主体性を育む教育活動を引き続き進めてほしい。

(委員 L) 地域の学校として今後さらに発展してほしい。自身も卒業生であり、また子どもも在学していることから学校への思い入れがある。協議を通して様々な取組を知ることができたが、地域にとって魅力ある学校となるよう、今後も学校の活性化に期待したい。

(委員 M) 学校魅力化に関する取組の中でも、オープンスクールは特に重要である。今後は参加者や保護者の声を収集し、外部の視点から学校の魅力を分析するとともに、効果的な情報発信やプロモーションの支援を行っていききたい。

(委員 N) 本日までの協議を通じて、地域連携や学校魅力化に関する多くの有益な提案が得られた。今後は、協議会で出された意見を学校教育活動の中にどのように位置付け、具体化していくかが重要となる。短期間で実施できる取組もあれば、長期的な視点で検討すべきものもあるため、優先順位を整理しながら実現を図っていく必要がある。

また、地域には優良企業や研究機関、大学、行政機関など多くの教育資源が存在していることから、それらを積極的に活用し、生徒が地域を知る機会を充実させていくことが重要である。

さらに、地域を理解し誇りを持つことが、より広い視野を育む基礎になるとの考えが示され、地域の歴史や文化、自然環境などについて学ぶ機会を充実させていくことが必要である。

最後に、本日の協議を通じて多くの示唆を得ることができた。引き続き委員の協力を得ながら学校運営の充実に努めていきたい。

⑦ 閉会の言葉(教頭)